

種智院大學 同窓會報

第22号

平成9年10月31日

京都市南区壬生通八条下る東寺町545

種智院大学同窓会

TEL(075)681-6513 FAX(075)681-5651

平成9年度 総会 特集

平成9年6月20日(金)、本年度同窓会総会を母校講堂にて行った。台風7号が接近し、交通機関が大幅に乱れる中での開催であった。恒例により、同窓会物故者慰霊法要を挙げる。経頭は、醍醐寺教学部長の宮本真光師(昭和14年)が勤められた。その後、開会が司会者より告げられ、会長・池田登輝現下より、あいにくの天候だが、1年に一度の総会なので母校の発展のため皆で智恵を出し合って話し合い、あとは肩書はずして学生時代にもどり、それぞれ充電していただき、地元に戻って再び本務に励んでいただきたいと開会のご挨拶をされた。

次に、真言宗京都学園理事長、仁和寺門跡吉田裕信現下からの祝電が披露された。

さらに、母校の学長・今井圓明現下が挨拶に立たれ、大学のことは後ほど詳しくお話させていただくが、伝統を営々と積み重ねて来た大学を自分たちも新しく作って行かなければならない、立派にしなければならぬ。大学については様々な提言をいただいているが、平成11年には種智院大学となって50周年になるので、向島に新しいキャンパスが建っていることを目標に頑張りたいと思う。そして日本のため、世のため人のために尽くす立派な人材をつくりあげてゆきたい。そのためには皆様のお力をいただいて、一緒に明るい展望のなかで頑張りたいと思っているとのことであった。

議事に先立ち、本年4月より同窓会事務局の顔ぶれが一部交替したのを受けて、新事務局員を紹介した。

児玉義隆助教授・池田和彦講師・今井浄圓講師・都筑大乘職員(昭和47年)・宇垣泰明職員(昭和57年)・沖津祐照職員(平成2年)

なお、昨年度まで事務局を一身に担い、同窓会に尽力され今日のような盛大な会にされた宮城洋一郎教授は、惜しまれつつ今春本学を退任され、

皇学館大学教授になられた。また、社会学博士の学位を取得された。池田会長より記念品の目録と金一封を贈呈した。宮城先生には、同窓会の諸大徳に懇意にさせていただき、また本学に来たことで研究の幅が広がり、助成もいただき、学位を取得することができて本当にありがたいと、お礼のご挨拶をいただいた。

続いて、総会の議事に入り、東田教範師(西中国支部長)を座長に選出。資料説明のあと、報告事項①平成8年度事業報告案ならびに平成8年度決算報告(監査報告を含む)について審議。監査の加門得勇師(昭和28年)より決算が適正に処理されていることの報告があり、原案通り承認。②大学の現状報告を今井学長からしていただいた。昨年度の同窓会の講演以降の経過及び将来構想についてお話し下さり、学長の熱意に会場も感銘を受けていた。③名簿編集委員会報告は、この日午前10時より開催され、同窓会の会則を一部変更する旨の報告があり、了承された。この後、名簿を作成してもらっている関西廣濟堂の琴浦氏、朽木氏が会員に挨拶した。続いて協議事項に入り、①平成9年度事業計画案ならびに平成9年度予算案が審議され、異議無く了承。②同窓会会則改正は、第4条(会員)の規程を変更することについて、名簿作成委員会のほうから説明があり、賛成多数で承認。③役員人事は、川村俊朝副会長が平成8年12月1日泉涌寺長老にご就任されたので顧問に、佐伯龍幸幹事が平成8年4月1日西大寺執事長・教学部長にご就任されたので参与にそれぞれ推薦し、承認。川村泉涌寺長老には、池田会長より花束が贈呈されて、総会の議事は終了した。

引き続き、「長谷實秀と南方熊楠」の演題で、京都市立芸術大学学長上山春平先生のご講演をいただいた。上山先生は、掛け軸や書籍、資料を示されながら、豊富な話題のもとに長谷先生は戒律を重視されたこと、ご自身と長谷先生との触れ合

いの思い出、特に求聞持法のことについて幅広くお話して下さり、また、長谷先生は幅広い教養のかたで、英語にも堪能であった。南方熊楠が土宜法龍師と親交を深め、土宜師の外遊中、南方熊楠がイギリスから日本に書籍の送り先を尋ねたところ、長谷先生を推薦されたことや、その送られた英文の本を長谷先生が翻訳して『伝燈』に連載されたことなど、一宗の碩学と称賛される長谷先生の意外な側面を紹介され、全体を通じて会場に呼びかけてはお話を進めて行かれる中で、大変興味深いお話をしていただいた。最後に上山先生は、長谷先生の五十回忌に参列できなかったのでご供養のつもりでお話しされたことを述べられて締めくくられた。

講演終了後は、屋上に上がって東寺の五重の塔を背景に記念撮影して、懇親会場へタクシーで移動した。

懇親会は、京都駅前の中華料理店東天紅で開催し、開会にあたって、池田瑩輝同窓会長にご挨拶をいただき、今回顧問に推戴された総本山泉涌寺長老川村俊朝祝下の乾杯の発声で始められた。卒

業年次順に、順番に一言ずつ出席された会員にお話しをいただき、それぞれ近況や大学の将来など和やかに会話が弾むなかでお開きとなった。それぞれ、来年もまた会えるのを楽しみに、また新しい顔ぶれにも参加していただき、さらに盛大になるようお願いつつ帰途についた。

参加者

多田隆信、宮本真光、澤実英、藤沢宥彰、江坂宗純、田中実道、川村俊朝、手塚利貞、蓮沼雅春、円藤信道、法本弘文、藤井周一、東田教範、今井圓明、佐伯龍幸、田中純應、神野龍幸、生駒研性、石坪昭真、市橋真明、足立有教、池田瑩輝、宮本成雄、田井秀戒、加門得勇、北村謙臣、井上亮淳、沖田定信、北村太道、森光榮、土屋博秀、山本純一、都筑大乘、大林教善、鈴木宏教、北村祐道、麻生照胤、鷲尾遍隆、岡田幸恵、玉山順彦、宇垣泰明、宮崎幹大、佐野剛空、岩崎豊、沖津祐照、鈴木弘昭、高島秀彰、頼富本宏、宮城洋一郎、児玉義隆、池田和彦、左右田昌幸、今井浄圓

(順不同・敬称略)



長谷賢秀先生五十回忌法要厳修 ならびに「長谷賢秀全集」刊行祝賀会

種智院大学密教資料研究所（山崎泰廣所長）では、明治・大正・昭和を通じての真言宗碩学の長谷賢秀大僧正五十回忌法要・記念全集出版祝賀会を、正当日である平成9年2月17日に執行した。長谷大僧正は「弘法大師全集」「弘法大師諸弟子全集」「真言宗安心全書」等多くの資料集を編纂刊行。また明治33年から昭和22年まで、本学の前身である真言宗聯合京都大学・京都専門学校で教鞭をとり、多くの宗門の人材を育成し、真言宗学を支え、偉大な業績を残された。同研究所では一昨年設立以来、最初の事業として、長谷賢秀先生の業績を集大成した全集の製作を進めており、このほど全六巻・別帙六冊のうち三巻が完成していた。当日は午前10時より本学3階講堂に長谷先生の遺影と位牌をお祀りし、今井圓明学長導師のもと、教職員、同窓生、在校生による職衆十口により平座理趣三昧をもって五十回忌法要を営んだ。法要中、図書館長北村太道教授が霊前に全集を奉り、仏教学部長頼富本宏教授が別掲諷誦文を表白した。

法要後、全集出版記念講演会を行い、山崎研究所所長が「長谷先生の学恩に少しでも報ずることができたことは感無量の思い」と出版の経緯を述べた。続いて「長谷賢秀先生の思い出」の演題のもと、木南卓一帝塚山大学名誉教授の講演が行われた。最後に頼富仏教学部長が謝辞を述べて終了。

午後から京都グランドホテルに会場を移し、記念撮影の後、全集出版祝賀会を開催。初めに今井学長は大学の将来構想（大学移転・建設）への協力を求め、長谷先生の遺志を継ぎ大学拡充、育成に努めたいと挨拶。次に遺族の梅尾正昭氏が謝辞を述べ、学園理事長の吉田仁和寺門跡は、長谷師は自坊大聖院先々代住職だったので、五十回忌法要厳修のお礼と全集の意義を語った。次に松長有慶日本密教学会理事長・高野山大学教授の挨拶の後、池田瑩輝本学同窓会会長が挨拶と乾杯の発声を行い、祝宴に移った。初めに筑波勸修寺門跡、稲葉金剛峯寺座主、石堂中山寺長老、楠智山派宗務総長らの祝電披露。次いで長谷先生の遺墨や京

都専門学校時代の写真等をスライドで紹介、また東野学明師や川村泉涌寺長老、小林前泉涌寺長老、小林仁和寺元門跡、大西長谷寺事務長、田中洛南高校校長、東田教範師、佐伯西大寺寺務長、廣安大覚寺事務長、市橋随心院寺務長、江坂宗純師等が長谷師の思い出やエピソードを語り先生の遺徳を偲んだ。最後に山崎所長の謝辞をもって盛会のうちに終了した。

五十回忌法要導師・職衆

（導師）今井圓明学長（職衆）山崎泰廣、頼富本宏、野口圭也、宇垣泰明、上田瑩宣、岩崎豊海、沖田憲信、長谷川芳生、島田大観、田中密敬（会奉行）添野智蹟（承仕）長尾和人、平野将則（司会進行）北尾隆心

五十回忌法要・出版記念講演会・出版祝賀会出席者（御遺族）梅尾正昭（参列者）池田瑩輝、吉田裕信、川村俊朝、蓮生善隆、小林海暢、小林隆仁、井上紀生、倉信隆源、廣安俊道、平野暎哉、中川祐聖、大西信康、松長有慶、木南卓一、北條賢三、市橋真明、江坂宗純、大河内海敏、田中純應、桑田善照、岡崎厚道、佐伯龍幸、石原高善、多田隆信、森見章、東野学明、東田教範、福岡徹明、福島尊光、宮崎快寛、神保全孝、安田頼盛、水谷修夫、峯孝雅、法本弘文、本郷晋海、英真恵、上田瑩宣、岩崎豊海、東龍行、米田雅一、長谷川芳生、阿部龍文、永田覚範、吉川弘哉、高橋辰興、黒多良弘、笹尾正道、三木弘明、山口憲志、小田哲舟、浅井戒雅、前田弘隆、増田憲榮、村田文英、大塚弘師、大本祐章、谷良海、中山恵晶、中野和順、渡部賢明、南祐正、二宮泰臣、入江宥道（大学教職員）今井圓明、山崎泰廣、頼富本宏、北村太道、井上亮淳、刈谷定彦、宮城洋一郎、中村幸子、児玉義隆、野口圭也、北尾隆心、添野智蹟、今井浄圓、高田順仁、嶋裕海、都筑大乘、宇垣泰明、沖津祐照（出版関係）法蔵館、六大新報社、高野山出版社、中外日報社、文化時報社

（順不同・敬称略）

◆ 降誕会を終えて

平野 将則

今年度の降誕会法要も無事、成満した。連日の雨で東寺への行道が心配されたが、当日は晴天に恵まれた。

「護持密教」——真言行者たるゆえん——

とテーマを掲げ、学生が一丸となり毎日、練習と準備に取り組んだ。今年は暦の上で15日が日曜日になるため、17日が当日となった。丁度、興教大師覺饒上人のお生れになった日であり、本年の特色として弘法・興教両大師の降誕会法要とした。両大師の祭文、古義、智山、豊山と各派の声明が一つの法要で調和する他では見れない法要でまさに「オール真言宗」構想の具現化した姿である。このような形の法要をつづけられるよう努力したい。午後からは記念講演として、本学講師の松長有慶先生による「21世紀に生きる大師の教え」という貴重なお話をいただいた。

学生はもちろん、一般の方々にも大好評であった。又、もう一つ「平成節談説法」と題して、本学2回生の斎藤明弘君と聖護院の渡辺空智・Gさんの2人が三味線と太鼓を使い弘法大師と神変大菩薩の御一代記を披露し、こちらも大成功であった。

最後にご協力いただいた各御本山、指導いただいた教職員の方々、また協力いただいたすべての方々に、この文面にて改めて御礼を申し上げる。

(本学 学生自治会会長)

〈学校だより〉

◆ 新任の挨拶

左右田昌幸

平成9年4月より、専任講師として赴任いたしました。教職免許・博物館学芸員などの資格関係を中心とした講義を担当させていただきます。

これまで、西本願寺の付属研究所で近世を中心とした真宗の勉強をしてきました。学生との関わりでは、女子大学での非常勤講師としての経験しかありませんので、小さいと



はいえ4年制の男女共学の大学で、学生との距離の詰め方に戸惑いを感じていますが、4月以来、種智院大学の学生も「なかなかやるではないか」という想いを新たにしています。

とはいうものの、大学の教師は「太鼓」と同じで、叩き手(学生)が上手に叩けば好い音がするぞ、という想いも少し感じています。学生が、勉強だけでなく様々な面で「叩き甲斐」「食いつき甲斐」のある教員を目指したいと思います。

◆ 事務局退任のご挨拶

宮城洋一郎

昭和61年4月に種智院大学に勤務し、同62年より同窓会事務局の任に当たってまいりましたが、本年3月を以て本学を退職致すことになり、同窓会事務局も退任することになりました。ここに、同窓会会員の皆様方に、これまでにお世話になった御礼を申し上げ、退任のご挨拶を申し上げます。

本学勤務11年のうち、同窓会事務局の任に10年間あたってきました。わたくしの本学勤務は同窓会とともにあったというべきであります。それだけに、この間の思いは格別のものがあります。

同窓会が昭和57年に発足して、その再興が期せられたのは、本学の校舎増改築事業と深く関連しておりました。昭和61年当時の学長・鷲尾隆輝殿下は、この事業の推進のための重要な柱のひとつに、同窓会活動の活性化を上げられたのであります。翌年、当時、企画室員であったわたくしに同窓会事務局の依頼がありました。勤務して間もない状況のなかで、右も左もわからず、しかも、同窓生ではないというさまざまな困難な中、諸先生方のご指導のままに、ひたすら走り続けてまいりました。



会長より書を贈呈

当時、事務局を任すべく、京都の各本山より、若手の同窓生の方が集まって、協議しながら総会の準備をしておりました。既に故人となられた仁和寺勤務の蠣田宥全師を中心に何度も会議を重ね、昭和62年11月、総会の開催を成し遂げました。その後の会長選出にさ

いし、その重任を受託された池田瑩輝猥下から、事務局がしっかりしていることを受託の理由のひとつにあげて頂いたことは、忘れることのできない感激でありました。

全国各地で支部創設が図られていくなか、勧募のための同窓会ではないのかという批判もあり、継続して会の運営をはかることが、厳しく問われました。いっぽう、勧募活動は予想を越えた成果を収め、新校舎は無事完成し、大学は臨時定員増により飛躍的に発展しました。

厳しい批判と勧募の成功、それはひとえに、在学中の厳しい勉学環境のもとでご苦勞された同窓生の皆様方の思いが反映されたものであります。自分たちと同じ轍を後輩たちに踏ませたくないという強いご意志が、そこにあったのではないのでしょうか。それだけに、心して学ぶべきことを、授業を通じて学生諸君に繰り返し述べたことであります。わたくしは、残念ながら、同窓会の皆様との体験を共有することはできません。しかし、皆様の思いに熱く感動する事ができました。このことが、10年の事務局の任を続けることのできた理由ではなかったかと思えます。

現在、本学は、学長・今井圓明猥下のもと、新しい発展を迎えんとしています。その折りに、新たな感動をともにできないことは、大変つらいことでありますが、わたくしも、新しい職場にて、本学で学んだことを胸に刻んで、再出発を図りたいと思います。これまでのご指導に、謹んで御礼申し上げます。ありがとうございました。

◆◇ モンゴル草原の仏教

(密教資料研究所海外調査班報告)

教授 中村 幸真

現在世界の仏教圏の中で、我々の知識の少ない地域の一つにモンゴル国があります。近年広大な草原や旭鷲山の活躍等でブームの兆しに見えるモンゴルですが、仏教の話題になりますと全くと言う程聞こえてきません。その理由はこの国の社会主義に原因があります。かつて1万以上あった寺院は、社会主義の時代に殆どが壊されました。またあるものは病院になり、博物館になっているものもあります。社会主義の約70年間という年月はこの国の仏教に徹底的なダメージを与えました。

しかし、幸いにも首都ウランバートルにあるガンダン寺は破壊の手から逃れる事ができました。

また、この寺のみ僧の存在を許されたのですが、現在ガンダン寺を中心として復興に取りかかり始めたという状態です。調査団の目的は大発見と言うよりも、この様なモンゴル仏教の現状を記録する事にあります。

さて、本年の調査団の目的ですが、主目的は昨年同様に調査領域の範囲の見極めにあります。例えば現在のモンゴルではかつてあった寺院の位置すら既にわからなくなっていますが、これらの寺院の調査は先ずその名前と位置の割り出しから始めなければなりません。またモンゴル国内に経典はどこにどれだけあるのか。現在行われている儀礼はどのようであるのか。本格的調査以前に見極める事項がたくさんあります。

また、本年の調査団は新たに吉田教授の文化生活班が加わります。主に寺院の食生活を調査項目とするとの事ですから、これまでにない方面からの報告が期待されます。

卒業生の木原君は民話に取り組みますが、この報告も楽しみです。



◆◇ 社会福祉士国家試験受験対策

特別講座を開催 (1997年7月7日)

専任講師 池田 和彦

本講座では、毎年、社会福祉士国家試験に見事合格した本学卒業生を講師に迎え、受験対策のみならず、社会福祉を学ぶ意義、社会福祉士資格取得の意義などについて、講演していただいています。今回お願いした引間さんは、本学で初めて社会福祉士の資格を取得された方でもあり、現在では滋賀県において社会福祉士の理事を務めるなど、大活躍されています。

以下、当日の講演のダイジェストをご紹介します。

こんにちは。私、引間と申します。どうぞよろしくお願いたします。

1993年3月に種智院大学を卒業し、4月から八日市市社会福祉協議会に勤務することになり、現在は生活指導員として身体障害者デイサービスを担当しています。

私は、94年の第6回社会福祉士国家試験に合格し、5月に社会福祉士として登録、日本社会福祉士会にも入会しました。社会福祉士会での活動を通して、多くの人と仲間意識も持つことができ、さまざまな相談も可能になってきました。滋賀県社会福祉士会の理事、社会福祉士現任研修実行委員を務め、また去年は全国大会・社会福祉士学会の運営委員なども務めさせていただき、多くの社会福祉士たちと深い交流を持てるようになりました。

このようなことを考え、実践してきた経験から、後輩の皆さんにアドバイスを少ししておきたいと思います。

今、受験資格を取ろうかどうか迷っている人も、ぜひ指定科目だけはとっておくようにお勧めしたいと思います。というのも、私の周囲でも、受験資格を持たない同僚が通信教育や専門学校に通って、貴重な時間とお金を使ってがんばっているからです。福祉問題も時代とともに複雑化し、これからは他職種との連携を行うケアマネージメントの力量が要求されてきます。その任用資格として社会福祉士が要求されていますので、これからは、社会福祉士をとらないと思うように仕事のできない時代になっていきます。ですから、学生の間にぜひ受験資格を得ておいてください。

私が社会福祉士になって一番よかったと感じるのは、人との出会いです。それも同じ社会福祉士として連帯感・仲間意識を持てる人たちが、職場の中にも外にもたくさんおられるというのは心強いかがりです。人と人が出会うところから社会福祉は始まっていくと思います。後輩の皆さんとも、近い将来、ぜひそういう場所で出会いたいと願っています。

どうか、頑張ってください。長時間ありがとうございました。

◆ 感想

4回生 林 智奈美

第6回社会福祉士国家試験に合格され、現在滋賀県で社会福祉士として働いておられる引間さんの講演会は、最初、八日市市での仕事やデイサー

ビス、老人デイサービス、身体障害者デイサービスについて、又、公的介護保険とそれに関連したケアマネージメントの必要性などの話から始まった。それらの話を聞いていく中で社会福祉の職場・職域で働くためにどれだけ社会福祉士の資格が必要なのかということと、一つの事とそして全体をも見るという視点の大切さを感じた。

また、引間さんが社会福祉士になって一番意義のあるもの、大切にすべきことは、相談に来られる市民の方やセンターの利用者の方々との出会い、つまり人との出会いとつながりだそう。人と出会うということは偶然の重なり合いである。私も人との出会いやつながりを今後も大切にしようと思つた。

大変参考になるお話、本当にありがとうございました。



— 宗教部より —



◆ 平成9年度 学園得度式

平成9年7月5日(土)午前10時より、本学講堂において学長今井圓明大僧正猊下の戒師のもと挙行した。

本年度の得度者は次のとおり。()内は僧名。

神田 征宏(征宏)	近藤潤一郎(潤海)
小松原示高(示高)	鷹野加奈子(恵妙)
楨本昭之助(尚明)	久富 正登(本證)

◆ 平成8年度 学園加行

平成8年度学園加行(第3回)は、大本山大覚寺様のご協力のもと、大覚寺道場において上井寛圓門跡猊下を伝授阿闍梨にいただき、三宝院流憲深方により行われた。夏期休暇中の前期十八道、金剛界に引き続き、後期加行は春期休暇を利用して2月5日から3月14日まで胎藏界、護摩行を約100日間(3ヶ月)修して、厳しい気候の中全員成満した。

加行参加学生 ()内は僧名

池田 航(本舟)	生駒 暁(法圓)
永瀬 勝也(円瑛)	酒井 崇行(崇圓)
森 光憲(光憲)	

種智院大学公開講座

1997年10月～1998年2月

仏教福祉学シリーズ



10月21日(火) 総本山醍醐寺執行長 仲田 順和

修験道の展開

修験という言葉は「修業得験」、古代から連綿と続く山の信仰をタテ糸に、密教をヨコの糸にして織られた大きな布、自然と一体化する叢中修行を中心に、修験道の今日的課題を含め考えてみたい。



11月21日(水) 華頂短期大学社会福祉学科長 飯田 一造

生命の輝き「一杯の水・一輪の花に生かされ、難民に学ぶ」

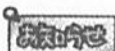
だれもがこの世にたった一つの生命を授かり、一回限りの人生を歩む。今、世界の各地に約2,000万人の難民がいる。一方で、「飽食の人たち」がいて、片方に、飢餓状態にある難民。一分間に25人、1時間に1,500人、一日に40,000人の5才未満の子どもたちが死んでいる。でも、貧困の中で子どもは輝いている。



2月21日(土) 種智院大学教授 桂 泰三

現代中国の社会問題と病理

1995年以降、中国では、福祉や社会問題、社会病理に関する書籍が数多く出版されるようになった。それらの文献をふまえ、最近の動向や問題、さらに21世紀にはどうなるのか等を考察してみたい。



- 一般来聴歓迎 聴講料無料
- 会場/種智院大学 3階講堂
- 時間/11:30～12:30

◆ お問い合わせ ◆ 種智院大学
〒601 京都市南区壬生通八条下る東寺町545
TEL (075) 681-6513 FAX (075) 681-5651

平成8年度卒業式

3月15日(土)、卒業証書・学位記授与式が挙行された。今年度は、95名の諸君が卒業された。式では、今井圓明学長のもとで、各コースの卒業生諸君の氏名が各コース主任より呼び上げられ、コース代表者に今井学長より証書が授与された。

続いて、学業賞、論文賞、六大新報社賞、高野山出版社賞の授与が、頼富本宏学部長より授与された。また理事長吉田裕信現下より、祝辞が述べられ、来賓各位の紹介もあり、盛大な卒業式であった。なお、卒業生送別懇親会は、京都弥生会館にてなごやかに催された。

〔学業賞〕

達家 齊・長谷川芳生・池内 幸恵・濱田 由利

〔論文賞〕

野田 聡・秋山 英之・豊岡 寛子・長谷川芳生
池内 幸恵・宮津 智稔・村田母映子・萩原 恵子

〔六大新報社賞〕

上田 衛・山田 智・木原 圭一・山口さおり
栗崎 宏昭・濱田 由利・長尾 和人

〔高野山出版社賞〕

川西なつ美・玉木 良恵・久富 正登・磯和 裕子

平成9年度入学式

4月10日(木)、入学式が挙行された。今年度は120名の新入生が入学した。

式では、新入生諸君の氏名が呼び上げられ、今井圓明学長より入学の祝辞を述べられた。続いて、来賓を代表して吉田裕信理事長からの祝辞があり、新入生の感激がいっそう高まったことであった。そして、新入生を代表して廣部千恵子さんが宣誓した。なお、最後に、頼富本宏学部長より教員の紹介があり、新入生のスタートを力強く励ましたことであった。

式終了後は、新入生は、京都造形芸術大学教授野田正彰先生の講演「社会変動と宗教—ロシアの今—」を拝聴し、式に参列した保護者の方々へは、大学から入学にさいしての説明会がおこなわれた。

〔来賓〕理事長吉田裕信現下、倉信隆源御室派総長、廣安俊道大覚寺派総長、大林教善善通寺派庶務部長、小野塚幾澄豊山派教化センター院長、細川憲了智山派財務部長、佐伯龍幸西大寺執事長、大河内海敏学園評議員、田中純應洛南高校校長、池田登輝同窓会会長、田中実道同窓会副会長

密教文化コース第1期生が卒業

専任講師 野口 圭也

平成6年のカリキュラム改定とともに密教文化コースが誕生してから3年が経過し、平成9年3月にはコース第1期の卒業生15名を送り出すことができた。さらに、不慮の事故のため卒論が間に合わなかった1名も、昨年度より設けられた9月卒業の制度によって先般卒業式を迎えたので、総計16名(内、女子6名)が密教文化コース第1期生ということになる。筆者自身もコースの発足に伴い、密教文化コース担当として平成6年4月より本学に奉職したのであり、無事にコース第1期生を送り出せて感無量である。演習や卒論指導を通じて学生と親しく触れ合うよう努めて来たつもりではあるが、さて学生諸君の熱意に十二分に応えることができたであろうか、と案じている。

第1期生が入学した平成5年度入試は、平均4.7倍という高い競争率を記録した年であった。この競争率の高さを反映してか、学業に対してみな非常に熱心であり、筆者の担当する語学の授業などでも優秀な成績の者が多かった。特に、密教文化コースにおいては新コースということで、何を学びたい、という目的意識を持ってコースを選択した学生が多かったようである。平成6年度より設置した博物館学芸員課程も密教文化コースの学生は多数受講し、最終的に10名が博物館学芸員の資格を取得した。

密教文化コース設立の趣旨は、本学の教育研究の根幹をなす真言教学を中心とする密教学コースに対し、密教を文化事象としてとらえ、学生の幅広い関心に対応するという点であろうが、コース主任の頼富本宏教授が密教図像学研究的な世界的権威であり、また中村幸子教授も密教画をご専門としておられることから、マンガラや密教図像に関する卒論が多く、全体の半数に上ったのが大きな特徴である。他にも、民間信仰や伝承・伝説を主題としたり、また教理や歴史を扱う場合でも、文学作品や考古学資料をも対象としていた点も、本コースの特色と言えるだろう。学際的、と言うと些か大仰ではあるが、インドから中国・チベット・中央アジアそして日本という広範な地域において、1,300年という長い時間にわたり展開を遂げた密教の多様な姿を、様々な視点より解明しようとする試みの一端と言えるだろう。互いの卒論の内容が相互に関連しあっている事例がしばしば見いだされ、口頭試問では「密教文化の諸相」というテーマのシンポジウムを行っているかのような感さえあった。なお、図像を題材に論文を執筆する場合には、カラーコピーを用いると非常に有効である

が、最近では1枚30円という格安のカラーコピーができる店もあらわれ、学生諸君にも利用しやすくなった。このため、昨年度の卒論では、図像資料をカラーコピーで提出したものが多く、大変見やすかった。この度コースからの要望が叶い、本学図書館にも、大型コピー機に加えてカラーコピー機が設置され(少々値段が張るが)、学生諸君には便利になったことであろう。

第1期生の諸君は、卒論の執筆に向け、早い者は2回生の基礎演習の発表のころから題材を決め、十分な時間をかけて準備をしていた。この準備と努力の甲斐あって、卒論はいずれも力作ぞろいであった。一方、学生諸君の選んでくるテーマが、指導する側にとって必ずしも知悉の分野ばかりではないため、こちらも随分勉強させてもらった。この傾向は、第2期生である現4回生にも引き継がれ、昨年4回生の卒論の指導をしながら3回生の演習で、卒論、そつろん、と繰り返して来たせいも、順調に準備を進めている学生が多いようである。現4回生は、昨年にもまして卒論テーマが多様化しており、特に民俗学・民間信仰関係のテーマが目立っている。この分野は文献資料に乏しく、卒論の題材としては多少扱いにくい面もあるが、経典や大師の著作ばかりでなく、文学作品や歴史史料、あるいは絵画や民間信仰遺品などをも用いて、それぞれ研究を進めている。このような密教文化コースのスタイルの端緒を切り開いた第1期生の果たした役割は、大きなものであったと言えるだろう。願わくは、第1期生による空前とも言える卒論のレベルの高さが、それで絶後となってしまうまいよう、我々密教文化コースの教員一同、なお一層指導に力を尽くして参る所存である。

このところ、密教関係の大規模な展覧会がたびたび開催され、学生諸君が実物に実際に接する機会に恵まれたことは、密教文化コースにとって誠に有り難いことであった。同時に、それらの展覧会の盛況振りを見ると、本学が「密教文化」というコースを設置したのは、社会的要請に誠に適うものだったと言える。その後の密教文化コース在籍学生の増加も、そういう社会的状況を反映したものであろう。しかしながら大学4年間で学び得ることは、密教の広大な領域に比してわずかな部分でしかない。栄えあるコース第1期生の諸君が、本学で学んだ内容をさらに自ら深め、それを活かして社会の中でそれぞれの場において活躍されることを心より願ってやまない。

平成10年度 入学案内

□ 学部・学科・募集人員

仏教学部仏教学科
定員
80名

- | | | | | |
|---|--------------|----------------------------|-----|-----|
| ● | 推薦入試 | 一般公募推薦
指定校推薦
宗門後継者推薦 | 30名 | |
| | 一般入学試験 | | | 37名 |
| | 大学入試センター試験利用 | | | 10名 |
| | 社会人入試 | 3名 | | |
| | 編入学 | 若干名 | | |

□ 入試日程

(出願期間と手続締切は消印有効)

種別	会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
推薦 社会人(本学のみ)	東京 本学	11月12日(水)～11月26日(水)	12月3日(水) 12月5日(金)	12月10日(水)	12月19日(金)
	本学	一般A	1月13日(火)～1月27日(火)	2月3日(火)	2月7日(土)
一般B		2月4日(水)～2月19日(木)	2月20日(金)	2月26日(木)	3月9日(月)
一般C (宗門後継 一般)		3月2日(月)～3月14日(土)	3月19日(木)	3月24日(火)	3月31日(火)
		3月2日(月)～3月17日(火)			
センター試験利用		1月23日(金)～2月6日(金)		2月13日(金)	2月23日(月)
編入学(12月 3月)	本学	11月12日(水)～11月26日(水)	12月5日(金)	12月10日(水)	12月19日(金)
		3月2日(月)～3月14日(土)	3月19日(木)	3月24日(火)	3月31日(火)

但し 推薦入試は東京会場と本学会場いずれかを選択の事

※問い合わせ 入試要項の請求 種智院大学入試係
TEL 075-681-6513 FAX 075-681-5651

〈同窓会短信〉

◆ 会員消息 〈訃報〉

- 横尾 昭〈旧姓 釈〉(昭和23年)
平成8年11月18日 御逝去。
- 谷田 仁司〈旧姓 栗津英仁〉(昭和10年)
平成9年1月29日 御逝去。
大阪府三島郡島本町 勝幡寺住職
- 板脇 寛雄(大正14年)
平成9年2月16日 御逝去。
愛媛県今治市 四国八十八ヶ所霊場第五十五番 南光坊 前住職
- 吉村 増輝(昭和7年)
平成9年3月17日 御逝去。
岡山県井原市 常楽寺前住職
- 最明快 俊(昭和60年)
平成9年3月30日 御逝去。
岡山県邑久郡牛窓町 宝光寺住職
- 小林 隆仁(昭和8年)
平成9年4月3日 御逝去。
元御室派管長 仁和寺第四十四世門跡
岡山県総社市 圓尾寺住職(詳細別掲)
- 田畑 賢住〈旧姓 有房〉(昭和17年)
平成9年6月30日 御逝去。
奈良市忍辱山町 円成寺前住職

- 木田 宥岳(大正10年)
平成9年7月9日 御逝去。
神戸市長田区 西代寺名誉住職(詳細別掲)
- 野澤 密巖(賛助会員)
平成9年8月6日 御逝去。
真言宗長者・信貴山真言宗前管長
総本山朝護孫子寺第百三十三世法主・大本山玉蔵院貫主(詳細別掲)
- 稲谷 祐宣(賛助会員)
平成9年8月15日 御逝去。
岡山県邑久郡 正通寺名誉住職

会員の方で慶弔等ございましたら何でも結構ですので同窓会事務局までご一報下さい。

〈お詫びと訂正〉

前回会報第21号の会員消息記事に誤りがありましたので下記のとおり訂正させていただきます。高見寛康僧正をはじめとして、関係各位に大変なご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫びさせていただきます。申し分けございませんでした。

合 掌

記

誤 正

2頁24行 高見寛康師→高見寛恭師
同 25行 非常講師→非常勤講師

小林隆仁大僧正 御遷化



総本山仁和寺第四十四世門跡・元御室派管長・岡山県総社市新本1528 圓尾寺住職の小林隆仁大僧正は平成9年4月3日、90歳をもって遷化された。

密葬は4月5日に寶生院名誉住職石原高喜大僧正の導師のもとに営まれ、本葬は5月20日午後1時より仁和寺前門跡松村祐澄大僧正の導師により営まれた。いずれも千余名の会葬者の参列があり、盛葬であった。

大僧正は昭和8年に本学を卒業され、六大新報社に入社、総本山醍醐寺五大堂再建局参事を経て、昭和19年圓尾寺住職に就任された。

宗内においては御室派備中支所代議員を皮切りに支所長、宗会議員、副議長、公選特選各二期連続16年等をつとめ、仁和寺顧問、昭和58年に管長・門跡に就任。63年に任期満了の後、仁和寺最高顧問として活躍。

宗外においては民生委員、社会福祉に貢献され、厚生大臣特別表彰や勲四等相当銀杯賜与等10数回の表彰にかがやき、岡山県社会福祉協議会会長としても活躍され、宗団発展、寺門興隆、地域発展に尽力されその遷化が惜しまれる。

木田宥岳大僧正 御遷化

神戸市長田区神楽町6丁目7-18の西代寺名誉住職の木田宥岳大僧正は、平成9年7月9日96歳をもって御遷化された。



葬儀は7月11日12時30分から福照院住職山田天信僧正の導師のもとに営まれた。多数の会葬者の参列があり盛葬であった。

大僧正は大正10年本学を卒業され、淡路願海寺住職、西代寺住職を就任された。また副支所長、神戸市長田区仏教会会長、神戸市仏教連合会副会長、神戸真言宗連合会会長等の要職を歴任、昭和49年には東寺真言宗宗務総長に就任され活躍された。

平成7年のいまわしい阪神淡路大震災では自坊が全壊の後全焼し、令室を亡くされたが、苦難にめげず自坊を復興され、宗団発展、寺門興隆に尽力を傾けられその遷化が惜しまれる。

野澤密厳大僧正 御遷化



真言宗長者・信貴山真言宗前管長・総本山朝護孫子寺第三百三十三世法主・大本山玉蔵院住職の野澤密厳大僧正は平成9年8月6日、62歳をもって遷化された。

密葬は8月9日鈴木風永信貴山管長の導師のもとに営まれ、本葬は9月22日玉蔵院富貴閣に於て鈴木信貴山管長のもと信貴山葬をもって営まれた。いずれも千余名の会葬者の参列があり盛葬であった。

大僧正は早稲田大学、高野山専修学院、高野山大学大学院を経て昭和46年玉蔵院住職に就任された。他にも淡路国分寺住職・名古屋毘沙門寺住職も兼任。昭和51年信貴山真言宗管長・総本山朝護孫子寺法主に推され、定額位となる。昭和63年伝燈大阿闍梨、平成9年真言宗長者に推戴。後七日御修法大阿を無魔成満されたばかりであった。

大僧正は毘沙門天尊の篤い信仰心をもたれ、特に種智院大学振興の為、毎年卒論時に毘沙門関係の論文提出者にと多額の寄附を頂戴し、「玉蔵院賞」として学生の育成に情熱を捧げられ、その遷化が惜しまれる。

** 総会欠席者の返信ハガキから **

- 昭和
7年 竹中 弘明 足障害で外出困難
7年 亀田 隆基 私こと今年で満97才を迎えました。健やかに過ごしております。皆様によるしくお伝えください。
10年 峰光寺教進 元気で頑張っております。当日刑務師協会の協議会がありやむなく欠席いたします。母校を尊みたい気持ちでいっぱいです。
10年 岩城 秀雄 足腰が弱くなり外出をひかえております。
12年 長谷川眞興 母校の益々のご隆昌お祈りします。老来え気に過ごしていますが歩行に多少の不安を覚えますので残念ながら欠席させていただきます。
14年 宇喜多元潤 四大不調にて目下静養中。
15年 天野 雪純 宮津湾釣り糸垂れて、海光の老翁に日本三景初夏の旅バスの中化軒直しや五月光。
16年 藤本 亮井 住職勤続30年を期し、住職を交替し、霊園5,000墓の管理に尚一層の努力中です。
16年 峰光寺西立 入院療養中につきなにかと迷惑をかけます。ご寛容下さいませ。
17年 宮崎 忍勝 病気長期欠席中に学徒動員下り応召、即日帰郷となり再び療養生活に入る。
18年 長谷 清彦 都合で出席することができません。会議の件執行部に一任いたします。よろしくお願い致します。
19年 萩野 泰賢 おかけさまにて元気でございます。皆様のご健康をお祈り申し上げ、母校の発展を願います。
22年 高井 実夫 ご案内有り難うございます。体調の都合で欠席いたします。御盛会をお祈りいたします。
22年 木村 大廣 今年こそはと楽しみにしておりましたが、当山恒例の「大師講法会」があり備前宗務支所の年一度の参与檀徒大会があり各位よろしく御手します。御伝えください。
22年 松崎 隆雄 南方熊楠と聞けば私の魅力ある人物の1人で是非拝聴したいのですが、講演内容でもお送りいただけないでしょうか。皆様のご多幸を祈念いたします。
23年 野路井宏之 当日近大附属豊岡短大の出演になっております、

支部総会報告

◎大阪支部

大阪支部総会は平成9年5月29日、南海飯店にて午後6時より開催。田中実道支部長より開会の挨拶並びに本部副会長就任の報告があり、大学より児玉義隆助教授、宇垣泰明、都筑大乘各氏が出席、大学同窓会事務局の都筑氏より大学校舎移転について現状報告等があった。

続いて総会の審議に入り、法本弘文師を座長に選出。①平成8年度活動報告、会計報告を事務局長の土屋博秀師、会計の玉山順彦師より報告。②9年度予算について①②共全会一致で承認。③役員改選については、平成9年3月14日の役員会で平成元年設立以来幹事以外の役員は改選されておらず、本年度の選改を期に支部の活性化、役員員の若年化を図ることを提案。一部規約を改正し、現役員を相談役として新役員を助け、支部の活性化を図る事です承。平成9年4月23日の選考委員で改選人事を検討の結果下記の通りの選出となった。新体制において、支部会員相互の親睦と活発なる活動、また大学との関係を密にして、若い会員を勧誘し盛会となるよう努力することで確認した。

続いて懇親会に入り、校舎移転、母校の想い出、支部の将来、設立当時の苦勞話しや運営についての意見がかわされ、前役員の方をねぎらいながら盛会の内に閉会した。

出席者 (順不同・敬称略)

田中実道・西端良諦・法本弘文・蓮沼雅春・見城芳行
藤崎信幸・土屋博秀・玉山順彦・佐野剛空・武村尚史
見城雅俊・西田義範・藤崎孝之・西端良弘・中江康明
阿部晋介・石山陽律

〔大学〕 児玉義隆・宇垣泰明・都筑大乘

新役員 (敬称略)

支部長 佐野剛空 (S60年)
副支部長 森田恭生 (S60年) ・西田義範 (S62年)
事務局長 見城雅俊 (S61年)
会計 西端良弘 (H3年)
幹事 武村尚史 (S60年) ・藤崎孝之 (H2年)
中江康明 (H5年)
監査 土屋博秀 (S37年) ・玉山順彦 (S55年)
顧問 小松道円 (S8年) ・中塚栄澄 (S9年)
田中実道 (S22年)
相談役 西端良諦 (S23年) ・法本弘文 (S23年)
蓮沼雅春 (S23年) ・見城芳行 (S24年)
藤崎信幸 (S35年) ・上田靈宣 (S55年)

- 悪しからずご了承ください。
- 23年 吉村 八郎 同窓会の益々のご発展を祈念申し上げます。
 - 23年 櫻上 慈朗 民甲・家甲調停委員・町文化財保護団副委員長として頑張っております。ご会員の諸兄のご健勝を祈念し、種智院大学の益々のご発展を念じております。
 - 23年 本田 隆保 乾死先留の墓前祭あり、それに出席のため欠席いたします。(海軍関係)
 - 23年 寺岡 俊輔 当日野原系の臨時宗会の予定ですのでご欠席させていただきます。ご盛会を祈ります。
 - 23年 森田 鶴寛 皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしております。
 - 23年 桑 信昭 当日折り返す会合と重なり残念ながらやむなく欠席せざるをえなくなりましたのでよろしく皆様にお伝えください。
 - 23年 藤兼 正彦 総会ご案内通り恐縮に存じます。所用のため欠席失礼いたします。ご盛会を祈ります。
 - 23年 和泉 忍弘 毎回ご案内有り難うございます。田舎の寺ですと雑務に追われなかなかお暇ができません。残念ですが欠席させていただきます。
 - 23年 堀村 寛隆 いつも種々の案内をいただきありがとうございます。欠席で申し訳ありません。
 - 24年 黒川 和利 役員の皆様には一方ならぬお世話になりまして厚く御礼申し上げます。
 - 24年 吉田 裕徳 誠に残念ながら手術後静養の為欠席します。同窓生の皆様によりしく、盛会を祈ります。
 - 24年 宇重多恵隆 シンガポールに旅行中につき失礼します。各皆様によりしくお伝えください。
 - 28年 児玉 玄裕 目下、創塾、しきり邸下、納屋、庭、土塀など改築中で出陣出来ません。悪しからずご了承下さい。
 - 28年 稲塚 信海 今回は残念ながら法要のため出陣できません。皆様によりしく御礼申し上げます。
 - 28年 重徳 光輝 大変申し分けありませんが、当山組内寺院一周忌法要があり、よろしくお伝えください。
 - 29年 山本 静澄 所用のため出陣できません。不悪御寛容願いますようお願い申し上げます。
 - 30年 若田 真英 残念ながら、御大師講、檀摩祈禱のため欠席いたします。ご出席の皆様によりしくお伝えください。
 - 30年 住田 行樹 入陣中の為悪しからず出陣できません諸兄によりしくお願います。
 - 31年 向田 雅樹 種々の為、欠席させていただきます。祈、ご盛会。
 - 32年 櫻広 昭文 予定例会中につき欠席いたします。上山先生の講演を聞き逃したかったのですが残念です。
 - 32年 田居 麗空 残念ながら今回も寺務繁多の都合のため欠席させていただきます。何とぞ万甲よろしくお願いたします。皆様によりしくお伝えください。
 - 33年 糸田 公壽 当日、静岡市民生委員総務会がありまして、是非の出陣です御座承ください。
 - 37年 平松 弘明 同窓会の益々のご発展をご祈念申し上げます。名簿の作成ご苦労さまです。
 - 46年 後藤 啓之 当日、所用の予定がはいつており、残念ですが出陣できません。みなさまによりしくお伝えください。
 - 49年 藤原 豊吾 毎年失礼して申し訳ありません。みなさまによりしくお伝えくださいませ。
 - 50年 国定 満昇 当日先約があり誠に残念ですが欠席させていただきます。ご盛会を祈念いたします。
 - 51年 土田 いと 残念ながら今回は出陣できません。盛会になりますようにいります。
 - 52年 蓮住 信康 ご盛会を祈念いたします。どなた様にも同卒よろしくお伝えくださいませ。
 - 55年 長 孝弘 皆様のご健康、ご活躍を心よりお祈りいたします。
 - 57年 泉 明順 種大移転拡大との話聞き及んでおります。種大の伝統の良き御大師御殿の恩恵と益々離れるように思えてなりません。
- 平成
- 3年 下津 浩一 誠に勝手ながら、仕甲の都合により欠席させていただきます。
 - 5年 岡本 和俊 出陣できなくて残念です。皆様によりしく、今、研修会で会社代表で東京におります。
 - 6年 赤塚 祐道 平成8年卒の池田法子と結婚しました。(平成8年11月30日)平成9年御修法十二天承仕として出陣しました。
 - 6年 水原 真証 現在、東京の方に勤務しております。
 - 8年 通達道法雄 所用にて欠席させていただきます。先留の皆様のご健勝と会のご盛会を祈念申し上げます。
 - 9年 高橋 吉信 現在仁和密教学院にて修行中です。
 - 9年 長尾 和人 勤務上の都合でも出陣できません。お世話になった先生や大学の方々にお会いしお礼を申し上げたかったのですが残念です。



長谷賢秀全集

全六巻
別帙六冊

種智院大学密教資料研究所編

弘法大師の悟境への探究

真言宗碩学の全業績を集大成

完結!

セット価格一六、〇五〇円

第一巻 遺墨集／論文集

第二巻 大日経疏玄談／十卷章玄談
／般若理趣经分科・同末釋

／釋摩訶衍論玄談

第三巻 大疏秘記集

第四巻 大師御請来梵字真言集上

第五巻 大師御請来梵字真言集下

第六巻 四度加行指南者意得要略

別帙六冊 三宝院流憲深方四度次第

A5判／上製函入／本文95頁／平均四一〇頁
解説Ⅱ山崎泰廣／頼富本宏／北村太道／児玉
義隆／野口圭也／北尾隆心／添野智讓／今井
淨圓／加藤宥雄／上田靈城 新出資料をはじめ
め、著者の論文集、略年譜を付す。全巻読み
やすくするため漢文引用資料は読み下し文に
した。
◆内容見本呈／分売はいたしません

密教関連書籍 大好評発売中!

密教大系

全十二巻

セット一四〇六七九円

那須政隆著作集

全八巻

セット一三〇〇〇〇円

佐和隆研著作集

全四巻

セット四〇〇〇〇円

金剛頂経の研究

堀内寛仁論集上

一四〇〇〇円

金剛頂経形成の研究

堀内寛仁論集下

一五〇〇〇円

インド曼荼羅の研究

田中公明著

一八〇〇〇円

マンダラ宇宙論

立川武蔵編著

九五〇〇円

星曼荼羅の研究

武田和昭著

一四五六三円

法藏館

価格は税別です

TEL075(343)5656 FAX075(371)0458

創業380年
〒600 京都市下京区正面通烏丸東入